

米共配事業所 所長



みずほ 瑞穂 秋元

共同配送という仕事への誇り

毎日70〜100台分の配送を請け負う米共配事業所。食品の共同配送がメインで、学校給食会の荷物など幅広く取り扱っている。

扱うものが食品とあって荷物管理も大変だが、共同配送ゆえに、配送指示などの苦勞も多々ある。配車は3人体制で、ドライバーの人員構成から荷物の振り分けなど、偏りが出ないよういつも細心の注意を払っている。

「メーカーによっては出荷の最終確定が夕方になるので、その後のトラックを確保するのが大変なんです」さらに、日々配送重量に大きなバラつきがあるため確定してからしか車両の手配が出来ないという難題も抱えていた。

ほとんどのトラックは次の配送分をすでに積んでおり動かせないため、普段は協力会社に依頼をするが、それでも難しい時は物流新聞を見てこれまで関わりが無かった会社に電話することもある。

トラックの手配がどうしてもつかなかったときは、社員総出で朝まで駆け回ったこともあった。「配送には苦勞しますが、米共配は当社の自慢です」と限られた時間と、荷物量のばらつきという難題と日々向き合いながら、秋元はそう言いつて、笑顔を浮かべた。

「人」と「人」の繋がりの中で働くということ

運送はただ単に荷物を届けるだけではない。笑顔や喜びも届けることが出来る誇りある仕事だ。

物流トラブルなどで業務に支障が出ると、風のごとく仲間がいつも応援に駆けつけてくれた。先人が築き上げてくれた信頼関係で、笑顔で助けてくれる仲間には感謝しかない。社内でも問題が起きたら一緒に考えて動きしてくれる。自分は1人じゃない、いつも誰かが支えてくれると実感する。

「秋元さんだから助けるんですよ」。協力してくれる人々にそう言われるとたまらなくうれしくなり、感謝の気持ちと共にこの関係をこれからも大事にしていきたいと強く願う。



毎

日、どんなに疲れていても笑って過ごそうと決めた。話すのは得意ではないが、時間がある時は、協力会社とのコミュニケーションも取るようにしている。

自分と関わる全ての人が笑顔でいられるよう、誰もが楽しく仕事ができるようにしたい。自分にはやれることがたくさんあるのだと気付く。性差で悩んでいた頃を思い出し、「あの時、あきらめなくて本当によかった」と心から思えた。

所長としての夢と目標

所長になって、悩みを伝える側から受け止める側になった。忙しい中でも、できるだけ仲間の話を聞くようにしている。解決が難しいと判断したら、上長にも相談し、納得出来るまで話し合い、答えを導き出すように努めている。

業務上でどうしても解決できない事案もあり、己の未熟さを痛感する時があるが、昔のように立ち止まることはしない。

できないことを素直に受け止め、出来ることを続けていく。今後の目標は、仕事のさらなる効率化を図り、一人ひとりの負担を減らして全員が全ての業務を執り行えるように改善したり、重労働のイメージを撤廃出来るような働きやすい環境作りをしたりすること、米共配事業所から発信することだ。

忙しい仕事の合間での業務改革、道は険しいがやりがいがある。ここで仕事を続けていられることの喜びを、ほかの仲間にも伝えたいから。

「今後もお客様の元いち早く安全に共配をしていく。そしてこれからも米共配は宮田運輸だけと思わせたいし、社内でも一番の事業所を目指したい」。熱き思いを胸に、

秋元はこれからも走り続けていく。

雨

の日も風の日も、お客様の元へ荷物と共に笑顔を届ける株式会社宮田運輸。

枚方市、米共配事業所を切り盛りするのは、社内でも唯一の女性所長である秋元瑞穂。

明るい声と、笑顔が特徴だ。自身の業務も兼ねながら、社員のスケジュールや配車業務、荷物管理など全てをこなす。日々多忙な秋元に、仕事への思いを聞いた。

体力にハンディはあるけれど

2011年1月、男性社会のイメージが強い運送業界に足を踏み入れた秋元。「女だから無理、と思われるのが嫌だった」。女性でも運送業が出来るということを先頭になって証明していきたく、ひたすら頑張ってきた。しかし、現実には厳しく何度も壁にぶち当たり、そのたびに挫折感を味わった。重量物や、操作するトラックの大きさなど、いざという時に力がモノを言う世界は体力の差がハンディキャップとなり、どうしても敵わないと思いが知らされる。

経験なら積み重ねたいが、体をつくり変えることは出来ない。業務の中で性差を見せつけられるたびに自分が無力に思えて辞めたいと思ったことが過去に何度かあったが、自分の願いは何だったのか、何がしたくてここへ来たのかと冷静になって己を見つめ直した。体力が足りなくても自分だからこそ出来ることがあるはず、何よりまだあきらめたくはない。

配送ドライバーだった5年間、そんな思いに揺れ動きながら必死になってハンドルを握ってきた。

米共配の味

vol.3 2018.06



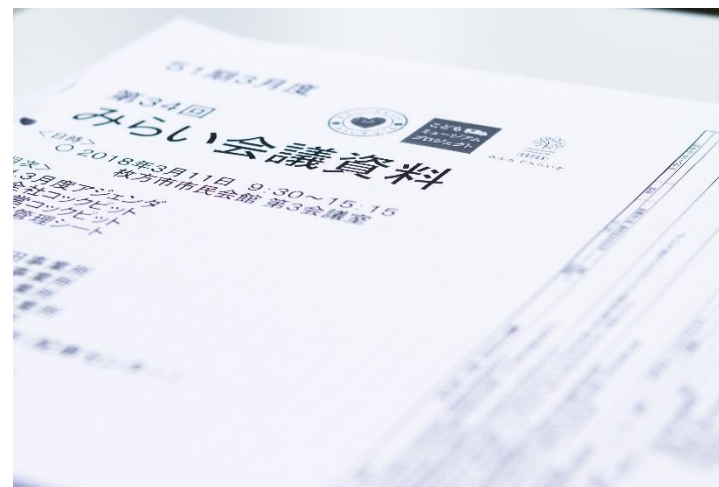
みらい会議へいこう

2018年6月24日 日曜日 9時半～
枚方市市民会館 第3会議室にて
第36回 みらい会議が開催されます。
皆さんの参加をお待ちしております。

みらい会議の概要

みらい会議は、心、体、頭の3点について、皆で学ぶためのものです。参加費は無料で、社内外問わずいろいろな方に参加していただいています。

午前中は、各事業所の1ヶ月の売上報告を行い、数字、情報などの頭の部分を共有します。売り上げ報告にも、社外の方が参加されます。会社にとって大切な情報も含まれているので、はじめは戸惑いもありましたが、「人を信じる」という会社のポリシーがよく現れている部分だと思います。



昼からは1時間ほどヨガをしたあと、お呼びした講師の方にそのときのテーマに沿ったお話をさせていただきます。過去には体験型のワークを通して、「死生観」や、「真実と感情」などのテーマで講演がありました。

ヨガのパートでは、普段動かさない体の部分を動かして、あちこちから楽しそうな悲鳴が上がっています。終わった後は、なんだかみんな、すっきりした表情になっています。

参加してもらいたい人

社長は、宮田運輸の社員280人全員に参加してほしいそうです(笑)一度も参加したことがない人も結構いるのではないかと思います。ですが、その人たちも、同じ会社に勤めている時点で大事な「仲間」だと考えています。個々人の思い、考えを尊重したいので、無理やり参加してほしいとは思いません。

もちろん1人でも多くの人に参加してもらいたい気持ちはありますが、全従業員の方にご参加いただくと、会場に収まりきるのが、心配です。夢はドームで(笑)今まで参加していない方！いつでも歓迎しますので、ぜひご連絡ください！

参加方法

まずは、各事業所の所長にご一報ください。当日、ふらっと来ていただいても、全然ウェルカムですが、お弁当にありつけなくなるとお思いますので、事前に参加お伝えいただくことを、強くお勧めいたします。

当日必要なものは？

ヨガセッションがありますので、『動きやすい服装』でお越しください。

会議の精神は『風通しのよい風土創り』と『楽しく、明るく、真剣に』です。できるだけたくさん、やさしい気持ちをご持参頂けると、ありがたいです。

交通アクセス

京阪枚方市駅 下車5分



講師紹介

ヨガ講師：田中智子
人を癒す仕事を探し求め、たどり着いたのがヨガ。インドにもヨガ修行に行き、ヨガ哲学や瞑想の修行を探求。ヨガは身体と心の両面からアプローチ出来る事に感動し、ヨガインストラクターとして活動を始める。



現在、大阪の mamispa にて身体を動かすだけのヨガだけではなく、ヨガ哲学や瞑想も取り入れ、本当の自分を見つけられるヨガレッスンを幅広く提供する。

セミナー講師：野澤卓央
自己理解を深め感情や意識の扱い方を通じて、チームや家族が本音で話し合い、協力しあうことができる人間関係の構築の専門家。

自己理解と自己一致した生き方を知識の理解でなく体現することを目指す研修を行っている。
著書に「自分を変えるほんの小さなコツ」ほか多数

